

令和4年度

第10回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和4年8月26日(金)  
開会14時5分 閉会15時11分

場 所 教育委員室

令和4年度  
第10回大分県教育委員会

**【議 事】**

(1) 報 告

- ① 子ども科学体験推進事業について
  
- ② 第46回全国高等学校総合文化祭の結果について

(2) 協 議

- ① 令和4年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

(3) その他

## 【内 容】

### 1 出席者

教育長	岡 本 天津男
委 員 委 員 (教育長職務代理者)	林 浩 昭
委 員	岩 崎 哲 朗
委 員	高 橋 幹 雄
委 員	高 鈴 木 恵 代
委 員	岩 武 茂 代
<b>事務局</b> 理事兼教育次長	渡 辺 登
教育次長	三 浦 一 雄
教育次長	内 海 真理子
参事監兼学校安全・安心支援課長	谷 川 芳 明
参事監兼特別支援教育課長	友 成 洋
参事監兼文化課長	森 健 治
教育改革・企画課長	重 親 龍 志
教育デジタル改革室長	神 崎 文 隆
高校教育課長	山 田 誠 司
社会教育課長	森 山 貴 仁
教育改革・企画課 主幹 (総括)	新 貝 隆
教育改革・企画課 主査	得 丸 祐 輔

### 2 傍聴人

2 名

## 開会・点呼

(岡本教育長)

委員の出席確認をいたします。

本日は、全委員が出席です。

それでは、ただ今から、令和4年度第10回教育委員会会議を開催します。

## 署名委員指名

(岡本教育長)

本日の議事録の署名については、岩武委員にお願いします。

## 会期の決定

(岡本教育長)

本日の会議はお手元の次第のとおりです。会議の終了は15時00分を予定していますので、よろしくお願いします。

## 議 事

### 【報 告】

#### ① 子ども科学体験推進事業について

(2課〔教育改革・企画課、社会教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、報告第1号「子ども科学体験推進事業について」社会教育課長から説明をしてください。

(森山社会教育課長)

令和4年度子ども科学体験推進事業について、報告します。

体験型子ども科学館「O-Labo」は、子どもの科学に関する興味・関心や探究心を育むために平成22年に開設し、今年で13年目を迎えました。

この間、延べ5万5千人余りの県民に対し、科学技術やものづくりに触れる機会を提供するとともに、理数系人材の育成や将来の自己実現を支える取組を実践してきました。

資料上段、「1. 事業の成果・概要」をご覧ください。

右側のグラフからもわかりますように、「O-Labo」の参加者数は、年々増加傾向です。令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症対策のため、定員の制限による影響がありますが、令和3年度の参加児童数5,338人は平成22年度比で4.4倍に増加しています。

実施講座数は、土日祝日・夏休み期間中を活用し、令和3年度は170日に拡大し、より多くの受講機会を提供することができています。

講座実施地域の拡大では、大分市以外の地方会場を拠点とした「サテライトラボ」を開設し、令和2年度以降、全県下に講座を展開しています。また、地方拠点の拡大とともに各地域の高校との連携を進めています。

令和4年度の新規講座として、資料として配布している「みらいの教室」を開講します。中学生を対象に、理数系に特化した専門講座を実施することにより、科学技術系人材の育成を目指しています。この講座では、受講前に予習動画を視聴した後に、講座に参加するシステムとなっております。9月10日（土）に初回の数学講座が開講し、続いて生物・地学・物理・化学の講座を実施します。

資料中段、「2. STEAM ラボの概要」をご覧ください。

2年目の取組となりました「STEAM ラボ」の講座について、今年度は「エネルギーの未来」をテーマとして開講しました。地球温暖化やエネルギー問題に興味のある小学6年生から中学2年生の22名が全8回の講座に参加します。第3回講座では、8月16日（火）から8月18日（木）の3日間に、九州電力八丁原発電所や九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所を見学しました。九州大学での見学では、第一線で活躍する研究者との意見交換の実施やエネルギー効率の向上についての実験を実施することができました。

#### 【第3回講座の様子を写真で紹介】

「STEAM ラボ」では、科学的根拠に基づいた様々な最新技術等を学ぶことに加え、エネルギー問題の解決には、立場の違う様々な人や国がお互いに協力しなければ解決できないこと、そして、解決に向けては、多くの困難の克服が必要であることを学びます。

最終回の講座では、受講生が設定した課題に関するポスターセッションを実施し、意見交換を行います。

最後に、資料下段、「3. 高等学校との連携」をご覧ください。

「サテライトラボ」の拡大に伴い、各地域の高校との連携を深めています。各高校の科学部等の生徒が講師となり、地域の小学生に科学体験を提供しています。毎回、かなりの人気講座となっており、募集定員の倍以上の応募があることも珍しくありません。今年度は15校の協力のもと、講座を実施しています。

#### 【講座の様子を写真で紹介】

高校との連携講座は、地域と学校とのつながりを深めることだけでなく、高校生にとっても非常に貴重な経験となっています。自分たちの学びを小学生に先生として伝えていくことの面白さや難しさ、準備の大変さや実施後の達成感など非常に多くの学びを得ることができています。今後も高校との連携を進めていきま

す。

報告については、以上です。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(岩崎委員)

「STEAM ラボ」は、非常に素晴らしい講座ですが、応募数63名のうち受講者が22名と、非常に限られた方のみが受講している状況になっています。

「STEAM ラボ」は STEAM 教育を広めるという役割を担っているのです。もう少し受講人数を増やせないですか。また、高校との連携について、より広がりを持たせることはできないですか。

(森山社会教育課長)

「STEAM ラボ」は、合計10日間の連続講座となっており、会場の許容人数やグループワークの人数等を勘案し、22名の受講としています。STEAM 教育の広がりを持たせていくことは、重要な観点なので、来年度以降も同様の講座を実施していきたいと考えています。受講者の選考については、多くの子どもの受講機会を確保していけるよう配慮していきたいと考えています。高校との連携講座についても、「サテライトラボ」を実施するなかで、さらなる広がりを持たせていけるように計画をします。

(林委員)

「STEAM ラボ」の実施においては、「大分大学 STEAM Lab.」と連携し、実施していますが、社会学や芸術系の先生とはどのような関わりをしていますか。

(森山社会教育課長)

「STEAM ラボ」の実施において中心的に関わっているのは、教育学部の先生です。また、理工学部の先生にも関わってもらっています。社会学や芸術系の視点は、教育学部の先生に役割を担ってもらっています。

(林委員)

社会学等の人文科学系の視点も大切になってくると思います。特にカーボンニュートラルや水素エネルギーの分野は、グローバルな視点が重要になるので、その視点についても、大切に進めて欲しいと思います。

(鈴木委員)

私の子どもに配布された「O-Labo」の講座を紹介するパンフレットを見て、多くの講座が実施されていると感じました。講座の種類や受講場所が多様であり、非常に参加しやすい体制ができていると思います。

(高橋委員)

資料として配布された「みらいの教室」を見ると、大分県出身の講師がいます。大分県出身の素晴らしい先生がいることを、今後もアピールしてください。地方にいてもこういう人になることができるという思いを、子どもに実感として持ってもらうということにつながると思うので、今後も取組をお願いします。

(森山社会教育課長)

今回の講座では、生物と物理の講座を大分県出身の講師にお願いしています。今後も積極的に進めていきたいと考えています。

## ② 第46回全国高等学校総合文化祭の結果について

(2課〔教育改革・企画課、文化課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、報告第2号「第46回全国高等学校総合文化祭の結果について」文化課長から説明をしてください。

(森参事監兼文化課長)

第46回全国高等学校総合文化祭の結果について、報告します。

令和4年度全国高等学校総合文化祭は、7月31日(日)から8月4日(木)までの5日間、東京都内15の区・市で開催されました。大分県からは、パレードをはじめ20部門に、28校266名が参加しました。

資料の「5 入賞結果」をご覧ください。

団体では、パレード部門で別府翔青高校と大分東明高校がグッドパレード賞、演劇部門で三重総合高校が優良賞・全国高等学校演劇協議会会長賞、マーチングバンド・バトントワリング部門で大分東明高校が講評者特別賞、新聞部門で大分豊府高校が優良賞、自然科学部門で大分上野丘高校が最優秀賞を受賞しました。

また、個人では、書道部門、写真部門、放送部門で4名が入賞しています。

今回は、大分県から団体、個人あわせて10の部門で入賞を果たしており、本県の高校生の日々の努力が、入賞という面からも評価をされた総合文化祭であったと考えています。

なかでも、自然科学部門において最優秀賞を受賞した大分上野丘高校については、令和元年度以来、3年ぶりの最優秀賞の受賞となりました。

資料の「研究概要(大分上野丘高校化学部)」をご覧ください。

研究テーマは「ヨウ素包接デンプン溶液への $\text{OH}^-$ の作用 ～金属イオン濃度の測定及び、ヨウ素包接率の算出～」で、2年をかけての研究となります。この研究は、ヨウ素包接デンプン溶液に「 $\text{OH}^-$ 」を添加し、変化が始まるまでの時間を測定することによりヨウ素包接率を明らかにするものです。この結果を用いる

ことにより、米などの品質指標となるアミロース含有量を求めることができる可能性があります。今回の受賞に際しては、仮説を立てて実験するだけでなく、実験の結果により導かれた理論を「式」として表し、さらにその「式」が正しいかを確認する検証実験まで行い、「式」を確立したところが他校の取組とは一線を画す点であり、この点が高く評価されたものと思われま

さらに、この測定方法と算出方法は、令和4年7月21日付けで、特許を取得しています。

なお、大分上野丘高校化学部については、大分県民表彰への推薦を予定しており、関係各課と連携し、表彰へ向けた手続きを進めてまいります。

報告は以上です。

(高橋委員)

大分上野丘高校化学部の研究は、他の機関や研究者等が行っていない内容であり、高校生が独自に発見したということですか。

(森参事監兼文化課長)

その通りです。大学院を超えた研究機関のレベルに匹敵する研究となっています。

(高橋委員)

デンプンのアミロース含有量を求めることができる可能性があるということですが、具体的にどのようなことがわかりますか。

(森参事監兼文化課長)

デンプンにはアミロースとアミロペクチンという成分が含まれており、そのうちのアミロースは粘り気などに関係する成分となっています。大分上野丘高校化学部が特許を取得するのは今回で4例目です。

(高橋委員)

特許を取得したので、是非大切にしてほしいです。

(林委員)

特許は守りながら、企業等での利活用ができるといいと思います。

(高橋委員)

企業からの使用料等を管理するためにも、勝手に特許が使われないようにアンテナを張っておく必要があると思います。

## 【協 議】

### ① 令和4年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

(8課室〔教育改革・企画課、教育デジタル改革室、学校安全・安心支援課、特別支援教育課、高校教育課、社会教育課、文化課、体育保健課〕入室)

(岡本教育長)

次に、協議第1号「令和4年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」教育改革・企画課長から説明をしてください。

(重親教育改革・企画課長)

#### <説明概要>

- ・点検・評価の枠組（趣旨、点検・評価の実施方法、報告方法など）
- ・目標指標の達成状況
- ・達成率が「著しく不十分」「不十分」となった指標
- ・令和4年度大分県長期教育計画委員会における主な意見

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(鈴木委員)

先日、「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会に出席しました。そのなかでは、農業に関する発言が多く、教育に関して苦言を呈されることはなかったと思います。「コロナの影響があるから仕方ない」というのが委員の意見で、「もっとこうしてほしい」という強い意思表示は特にありませんでした。

また、大分県私学協会理事長の小山康直委員が会長に就任されたことは、県教育委員会としては良いと思います。小山会長の考えや困りは県教育委員会と同じであると思いますし、現在困っている部分などに財源や人材を投入するという意見である思うので、問題はないと思います。

(高橋委員)

不登校児童生徒の出現率が下がっていますが、要因はなんですか。

(谷川参事監兼学校安全・安心支援課長)

今回の結果は、令和2年度の実績となります。実績値を出すに当たっての対象期間は3ヶ月間ですが、分散登校や休校の影響により登校日数も減ったことから、出現率も減少しました。令和3年度については、分散登校や休校の影響もないので、令和3年度と比較することが実態には合っていると思います。

(高橋委員)

分散登校等もあったため、データとしては不確定ということですか。

(谷川参事監兼学校安全・安心支援課長)

その通りです。コロナの影響により今回の結果となりましたが、令和3年度はコロナの影響がそれほどなかったため、令和3年度実績の調査ではより実態に近い調査結果になると思います。

(高橋委員)

コロナを契機として不登校が増加することが危惧されるので、引き続き支援をお願いします。

(岩武委員)

いじめの解消率が小学校・中学校・高校で低下しており、気になります。前年度と比較し、実績として低下しているということでしょうか。

(谷川参事監兼学校安全・安心支援課長)

分散登校や休校の影響により登校日数が減ったということが一つあります。また、3か月の期間をみて解消されたかを判断しますので、登校日数が減ったことは、解消率にも影響が出ます。被害にあった子どもが3か月の期間、いじめに遭った影響から解消されている様子がわからないといじめが解消されたことにはなりません。

(岩武委員)

いじめが解消されたとはどのような状況をもって判断しますか。

(谷川参事監兼学校安全・安心支援課長)

2点から判断します。1点目は、3か月の期間加害行為が起きていないことです。2点目は、被害にあった児童生徒が嫌な思いをしていないことです。

(岩武委員)

加害行為は起きていないが、児童生徒の中にいじめられているという意識が継続しているとどうなりますか。

(谷川参事監兼学校安全・安心支援課長)

児童生徒に嫌な思いが払拭できていない場合は、いじめは解消されていないと判断します。

(岩武委員)

その2点がいじめの解消の条件となると時間がかかることだと思いました。

(谷川参事監兼学校安全・安心支援課長)

児童生徒に全てを任せるのではなく、学級担任や養護教諭、スクールカウンセラーなどが関わってフォローしていくことが求められます。

(岩武委員)

加害行為は止まっているが、児童生徒の中に傷ついた心が残っていた場合は、いじめが解消されたとならないのは、文部科学省による定義ですか。

(谷川学校安全・安心支援課長)

その通りです。

(岩武委員)

加害行為は止まっているが、児童生徒の心がずっと傷ついたままという可能性もあるので、加害行為の停止と心の傷は分けて考えた方がいいと思います。いじめは全て解消しないといけないと思います。

(林委員)

本を読まない児童生徒の割合について、小説を読むことや人の経験を本で読むことができにくくなっていることが、いじめや不登校の問題に繋がっているのか、また、本を読ませることが大事なのかどうか、過去のデータ等から関連性がわかりますか。

(森山社会教育課長)

本を読むことに関連するデータとしては、学力や体験活動に関する自己肯定感のデータはありますが、いじめや自尊感情に関するデータはありません。

(林委員)

近年インターネットから情報を得ることが増加しましたが、インターネットには偏った情報もあります。幅広い情報や知識をどのように得るのかだと思います。電子書籍に関する取組の記述もありますが、是非その取組も進めて欲しいと思います。若い頃から幅広い情報に触れることが重要だと思います。

(内海教育次長)

読書と子どもの心の成長については、図書館教育を推進する関係者の間では、小学校の中学年前後までに「人生って信じられるもの」ということがわかる本に出会い、「生きるに足りるもの」ということを子どもに植え付けることが、将来的なレジリエンスに繋がるということが、以前から言われています。読書については、10年ほど前までは、情報リテラシーや情報活用能力の育成が注目されていましたが、現在のように「未来に希望が持てない子どもたちが増加した」と言われる状況では、以前言われていたように「心を豊かにすること」「人との関わりにつ

いて考える」「人生をいかに生きていくべきかを考える役割を果たす」ことが非常に大きいと思います。電子書籍であれ、紙媒体の書籍などいずれでも良いと思いますが、良書に親しませることは現在の状況において非常に必要なことだと思います。

(重親教育改革・企画課長)

8月22日(月)に開催された大分県長期教育計画委員会において、委員から「読書活動があらゆる子どもの成長段階において必要」や「生徒指導、不登校問題、学力向上にも読書活動が繋がっている」「読書は、感情の起伏を経験するまたは知識を得るといった人間の欲求に近いものがある」という指摘がありました。大分県長期教育計画内の「豊かな心の育成」に読書に関する指標を位置づけていますので、幅広く波及するものと認識しています。

(岩崎委員)

県教育委員会では、不読率を減少させるための取組をしており、読書日記の紹介をしていましたが、小学校においては、昨年度に比べて不読率が増加しています。どこに原因があると分析していますか。

(森山社会教育課長)

子どもに対してのアンケートでは「読みたい本が見つからない」という回答が多くあります。現状を整理すると、タブレットなどの電子機器を扱う時間が長くなることにより、本への興味や関心が少し薄れていると感じています。子どもが本を読もうとするタイミングで司書や学級担任が「その本はどのような話かな」という子どもの本を読む意欲を喚起する後押しが必要だと思います。さらに「子どもが本を読みたい」「本を使わなければならない」という状況をつくる必要があると思います。

(岩崎委員)

小学校においては、先生の経験に基づき、後押しをすると良いと思います。

(高橋委員)

私も今回示されたデータを見て、愕然としました。「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会において、学校訪問した際には必ず図書館に行き、司書がいる場合は図書館利用に向けた方法を見学しています。見学をした際に感じることは、子どもが目にしてわかりやすく、読むきっかけになるような本やテーマを設定し、その本を読むとさらに興味が沸くというような、子どもにとって取りかかりやすい形にしたらどうかと思います。学校の中には、本の説明文を書いている図書館もあり、その学校は読書率も上がっていると思います。司書は、子どもの目線で考えてはどうかと思います。子どもも読んだ本が面白いとまた読もうとなるので、子ども目線で考えて欲しいと思います。

(鈴木委員)

私の子どもが普段見ている YouTube のコンテンツを子どもと一緒に見ましたが、非常に面白かったです。情報量がとても多く、文字や言葉、効果音、画像を用いて、視覚に非常に訴えており、本を読まなくても良いと思うほどわかりやすい説明がされていました。動画を見ると、本を積極的に読まないかなと感じるとともに、五感に訴える動画と本との差を埋めることはなかなかできないと感じました。子どもは、本自体は好きだと思いますが、動画を視聴する方が簡単なため、動画ではなく本を子どもが選択するには、子ども自身や家族の本を読むという意識が必要だと思います。そのためには、電子書籍などのコンテンツが多い方が子どもの興味をひくと思います。例えば、ビブリオバトルを開催し、子どもにプレゼンテーションをさせることや高校生が書く読書感想文を用いて、ビブリオバトルをするということも必要かなと思いました。

(岡本教育長)

今回の協議の結果を踏まえ、準備を進めていきます。

(岡本教育長)

最後にその他、何かありますか。

それでは、これで令和4年度第10回教育委員会会議を閉会します。

ありがとうございました。